

研究タイトル：

日本人英語学習者のバイモーダルコーパス研究



氏名：	尾崎 ちひろ / OZAKI Chihiro	E-mail：	ozaki-c@sasebo.ac.jp
職名：	講師	学位：	修士(言語学)
所属学会・協会：	全国英語教育学会, 外国語教育メディア学会, ELEC 同友会英語教育学会		
キーワード：	学習者コーパス, 言語産出モード, 統語的複雑さ		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者コーパス分析・調査 ・ ・ 		

研究内容：日本人英語学習者の産出モード間にみられる語彙・統語的複雑さの比較

【学習者コーパスの使用目的】

教える相手である「学習者」が、どんな学習プロセスを経て英語を身につけていくのか、英語教師にとってこのことを理解していくことは大変重要である。「学習者コーパス」を使えば、大量に集めたデータから言語能力段階別に英語の使用傾向を概観できるので、習熟度別に学習者が使用できる典型的な表現や、間違いやすい語彙・文法などが分かり、学習者が言語を習得していく過程を明らかにすることができる。また、学習者コーパスから得られた分析結果は、シラバスデザイン、指導法の改善や教材開発など英語教育の幅広い分野に活かせる。

【学習者発話・英作文コーパス構築を目指して】

現在は、学習者の発話及び英作文のデータ収集と、産出モード間にみられる語彙・統語的複雑さの違いを調査している。語彙や文法の知識を得ていても、発話と英作文では英語を産出するまでの認知的プロセスが異なるため、発信技能を育成していく際に、産出モード別に指導方法や指導する語彙・文法の選択に工夫が必要である。発話や英作文において、通過する認知プロセスの違いや習熟度別に使える語彙・文法を示し、新しい指導法を考案していく。

【学習者コーパスを用いた分析の一例】

分析技術の進歩が著しく、分析方法も多岐にわたるため、研究目的に沿った分析方法を見つけ出すのは、コーパスを用いて研究していく上で大きな難題である。

図1の折れ線グラフは、日本人英語学習者の発話データと英作文データを用いて、「動詞＋不定詞」の使用頻度差をCEFRレベル別に示したコーパス分析の一例である。

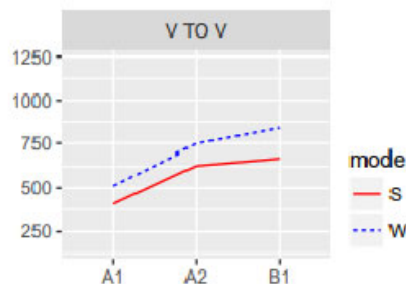


図1：発話データと英作文データを比較したコーパス分析の一例

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	